

資料編

- 1 検討体制及びスケジュール
- 2 名簿
- 3 会議日程と内容
- 4 牧之原市菊川市学校組合立牧之原小学校・牧之原
中学校における小中一貫教育のあり方に関する
意見書（写）

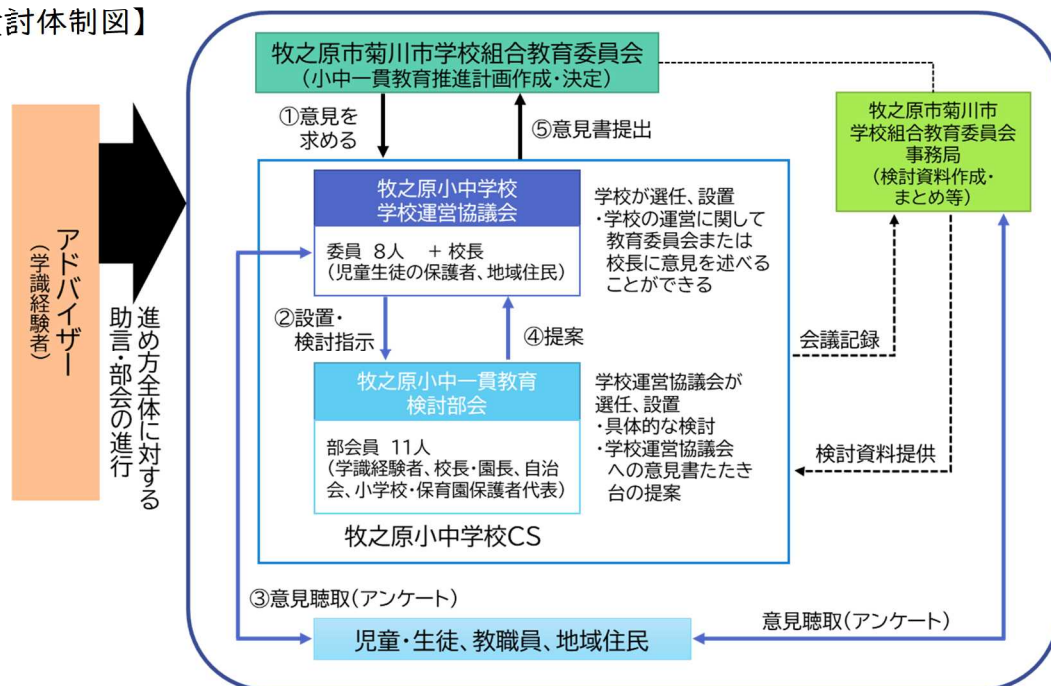
■検討の体制及びスケジュール

Ⅰ 検討体制

本検討については、地域住民の意見を反映できるよう、教育委員会が学校運営協議会に小中一貫教育を充実するための具体策の検討を依頼したものです。学校運営協議会では下部組織となる牧之原小中一貫教育検討部会を設置するとともに、意見聴取により検討を深め、意見書を作成し、教育委員会へ提出しました。

教育委員会では、意見書を基にさらに協議し、本計画を策定しました。

【検討体制図】



2 検討スケジュール

検討期間は、令和6年10月の教育委員会における計画検討の決定から令和7年9月の教育委員会の議決までの1年間であり、この他、構成市である菊川市との情報共有も併せて実施しています。

年度	令和6年度(2024年度)						令和7年度(2025年度)					
月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
教育委員会	方針検討意向決定			学校運営協議会・部会 オブザーバー						臨時会 7月18日 意見書受領・協議	臨時会 8月21日 推進計画内容協議	臨時会 9月18日 推進計画協議・決定
運営協議会		11月8日 検討内容・方法の承認		1月22日 視察 学校運営協議会・部会合同		3月24日 意見書案の検討・アンケート内容の検討			6月23日 意見書内容協議・決定			
部会		12月2日 第1回 「目指す姿と課題」		1月31日 第2回 「現状と課題」		3月4日 第3回 「提案まとめ」						
意見聴取			11~12月 子ども・教職員 アンケート 対象:全児童・生徒、教員 内容:授業、教育活動等				4~5月 地域住民 アンケート 対象:学区内全住民 内容:意向、意見				9月 保護者アンケート 対象:保・小・中の保護者 内容:意向、意見	

■名簿

○牧之原市菊川市学校組合教育委員会

職 名	氏 名	備 考
教育長	橋本 勝	
委 員 (教育長職務代理者)	近江 賢市	
委 員	八木 香代子	
委 員	永田 康彦	
委 員	山本 和波	

■ 小中一貫教育推進計画の策定に係る会議等一覧

会議等	開催日時	内 容
牧之原小中学校 学校運営協議会	令和6年 11月8日	■意見書提出の依頼 ・学校組合教育委員会から学校運営協議会へ、牧之原小学校・中学校一貫教育のあり方についての意見書の提出を求め、学校運営協議会が承諾。
牧之原市菊川市 学校組合教育委員会 臨時会	令和7年 7月18日	■意見書の受領 ・学校運営協議会から意見書を受領。 ・教育委員会は、これを基に計画の検討を開始。
牧之原市菊川市 学校組合教育委員会 臨時会	令和7年 8月21日	■計画書の検討 ・小中一貫教育推進計画(案)について、記載内容や表現等について協議、検討。
アンケート	令和7年 9月5日～ 9月16日	■計画書に関するアンケートの実施 ・牧之原保育園・小学校・中学校の保護者を対象 ※回答数:89件 -「良い」 43件 小中の連携が深まることに期待する意見が多かった。 -「わからない」 42件 メリットやデメリットが想像できないとの意見が多かったものの、小中一貫教育そのものを否定する意見は見られなかった。 -「良くない」 4件 牧之原市立の義務教育学校との格差を懸念する意見があったものの、小中一貫教育そのものを否定する意見は見られなかった。
牧之原市菊川市 学校組合教育委員会 臨時会	令和7年 9月18日	■計画書の策定 ・アンケート結果を確認するとともに、小中一貫教育推進計画(案)の修正内容について確認、議決。

(写)

令和7年7月18日

牧之原市菊川市学校組合教育委員会
教育長 橋本 勝 様

牧之原市菊川市学校組合立牧之原小中学校
学校運営協議会 会長 樽林初夫

牧之原市菊川市学校組合立牧之原小学校・牧之原中学校における
小中一貫教育のあり方に関する意見書

牧之原市立学校運営協議会規則第5条第1項の規定により提出を求められました「牧之原市菊川市学校組合立牧之原小学校・牧之原中学校における施設隣接の利点を最大限生かした、小中一貫教育を充実するための提案」について、下記の意見を添えて、別添のとおり提出いたします。

記

1 子どもの学びや育ちに応じた柔軟な教育課程の検討

小中一貫校は、運用により学年の区切りを4－3－2制とすることができま
すが、導入にあたっては、教職員や地域の理解促進に努めるとともに、子ども
の学びや育ちに寄り添った教育課程となるよう、教育委員会は学校と十分に協
議をしながら進めていただきたい。

(写)

**牧之原市菊川市学校組合立
牧之原小学校・牧之原中学校における
小中一貫教育のあり方に関する意見書**

令和7年7月

牧之原小中学校 学校運営協議会

■ 方針

将来的に義務教育学校にすることを目指し、遅くとも令和 10 年度までに、施設一体型小中一貫校を整備してください。

■ 方向性

○ 「タテ」と「ナナメ」の関係の充実

親子、先生と生徒、先輩後輩などを「タテ」の関係、同級生、チームメイトなどを「ヨコ」の関係、近所のおじさん・おばさんなどの知っている大人を「ナナメ」の関係と呼びます。

牧之原小学校・中学校では、「ヨコ」の関係だけでなく、子どもたちの 9 年間や教職員との「タテ」の関係、地域・企業等との「ナナメ」の関係を充実することにより、さまざまな年代の多くの人と関わる機会を増やすとともに、学校内外での多様な体験や成長段階に応じたチャレンジができる機会を多くつくることを望みます。

これにより、子どもたちが広い視野を持ち、多様性を享受できるようにするとともに、自分らしさを表現でき、主体的で充実した 9 年間の学びとなると考えます。

■ 具体策

1 9 年間の系統的・連続的な学び

(1) 成長段階に応じた学年の区切りの設定

牧之原市義務教育学校施設基本構想・基本計画において、9 年間の系統的・連続的な学びと育ちが充実する学年の区切りについて、市校長会の研究結果を基に、「子どもの発達段階や年齢の特性に応じた意図的な教育活動を行うため、4-3-2 制を基本とし、教育活動の実情に応じて 2-2-3-2 制、5-4 制などの枠組みで行う」としています。

牧之原小学校・中学校においても、9 年間の系統的・連続的な学びと育ちが充実できるよう、学年の区切りを 4-3-2 制とすることを提案します。

《牧之原市義務教育学校施設基本構想・基本計画から抜粋》

【解説】

9年間の系統的・連続的な学びと育ちが充実する学年の区切りを設定するにあたり、子どもの発達段階の特性などを考察し、整理しました。

1 発達段階の特性

子どもの発達は、現在の教育制度が整備された戦後から比べて2年程度発達が早まっていると言われています。子どもの発達段階の特性は大きく次の3段階に分かれると考えました。

- ・ 1～4年生（4年間） 学習・生活の基礎基本を定着させる時期
- ・ 5～7年生（3年間） 学習・生活の基礎基本を生かし、充実・進化させる時期
- ・ 8～9年生（2年間） 学習・生活の完成期 個の資質・能力を伸ばす時期

2 特性に応じた教育活動

小学校から中学校に進学した際の環境や生活の大きな変化（教科担任制・定期試験・部活動等）により、不登校やいじめが増える現象を中1ギャップといいます。子どもがつまずきやすい大きな段差（変化）をつくるのではなく、6年生と7年生をつなぎ、ゆるやかな段差とすることで中1ギャップの解消を図ることができる考えました。

同じ校舎で生活することで見える化が図られ、不安の軽減につながると考えていますが、さらに段差をゆるやかにするために、段階的な制度導入や相互のコミュニケーションができるよう、5～7年生の3年間を教育課程の前期課程から後期課程への移行時期として1つのまとまりとしました。

（2）9年間のカリキュラムの作成

子どもたちが学校に通うことが楽しいと感じ、安心感を持って学校生活を送ることができ、次代を切り拓く力を育むことができるよう、起郷家教育を推進するとともに、4-3-2制に対応した学年の区切りの目標や体験活動、授業等とし、9年間の一貫した学校生活のきまりや生徒指導となる教育課程の編成やカリキュラムの作成をお願いします。

また、各部活の部員数が少ない現状があります。活動の活性化や小学生が部活動に慣れることを目的に、小学校高学年の希望者が部活動に参加できるよう検討をしてください。

(3) 個別最適な学び

子どもたちの特性に応じ、ツールを活用した学びを行うと共に、専門性の高い指導を行うことで子どものつまずきや「もっと学びたい」という意欲に対応できるよう、積極的に ICT を活用した学びや一部教科担任制を充実してください。

また、教室に入ることが難しい子どもが、安心できる居場所を校内にできるとともに、支援員を置くなど、必要な支援をお願いします。

(4) 保育園との円滑な接続

就学前の園児が小学校の生活に円滑に移行できるよう、「幼保小の架け橋期のプログラム」を作成し、教育活動の充実を図ってください。

2 外との関わり（リアルとオンラインのハイブリット）

(1) 地域とのリアルな体験

牧ノ原台地は先人が開墾した茶畑を始め、自然薯など農作物が豊富にあります。また、牧之原インターチェンジや国道 473 号線バイパスがあり、富士山静岡空港が近接しているなどインフラにも恵まれ、多くの企業が所在し、開発も進んでいます。

子どもたちが地域の魅力に気づき、地域を誇ることができるよう、自然や立地又は単学級であるメリットを生かし、牧之原小学校・中学校だからこそできる本物に触れる体験の機会を子どもたちに多く提供できるよう、異学年交流など子ども同士の体験、地域住民と地域のことを学ぶ体験学習、そして地元企業との体験学習などの充実をお願いします。

また、多くの同年代の子どもと触れ合うことができるよう、市内の学校との積極的な交流を行ってください。

(2) オンラインで世界とつながる

牧之原小学校・中学校は単学級のため、子どもたちがより多くの人・こと・ものをつなぎ、多様な考えに触れ、広い視野を育むことができる機会をつくっていただきたいと思います。

より多くの機会をつくることができるよう、オンラインも活用し、他の学校や海外、さらには専門家などとの交流や学びも取り入れてください。

(3) コミュニティ・スクールの充実

地域と牧之原小学校・牧之原中学校との関わりについては、主に、小学校では、特産品であるお茶やたけのこなどの栽培・収穫を通した授業支援や登下校の見守り、中学校では面接練習、そして両校の植木の剪定や草刈りなどの環境整備、さらには、教育後援会による教育費の支援など、地域と学校が密接な関係を築いています。

学校運営協議会においては、校長が作成する学校運営に関する基本方針の承認に向けて、学校の教育活動が充実するよう、会議における議論を深めていくことが必要だと考えます。さらに、地域の学校への関わりの充実や地域主体の子どもたちの活動の場づくりを行うとともに、ボランティア等の活動に関わる人材を増やし持続可能な地域学校協働活動ができるようにすることも大切だと考えます。

現在、小中学校の連携がしやすいよう、既に学校運営協議会は小中学校で1つの組織で、CSDも1人となっています。しかし、2校分の業務を行うにも関わらず、他の学校と同様の学校運営協議会の人数やCSDの勤務時間数であり、特にCSDの業務時間数の不足が課題となっています。

学校運営協議会については、地域との連携を強化するため、各自治会の代表を構成員に含めることができるよう学校運営協議会の委員数を増やすとともに、CSDについては、業務時間の拡大など活動の充実を図るための対応をお願いします。

3 教職員の組織体制

(1) 9年間の子どもの学びや育ちが共有でき、一貫した指導ができる環境づくり

現在、牧之原小学校・中学校では、年に4回、合同の職員研修を行い、小中一貫教育に対する職員間の意識の醸成を行っています。9年間の系統的・連続的な学びや育ちを進めるため、さらに職員間の情報共有や連携をやすくするために、小中学校を1人の校長が統括し、両校の教職員が同一空間で執務を行うことができる職務環境などが必要だと考えます。

また、引き続き、小学校・中学校の合同の職員研修を定期的で開催するとともに、教科や生徒指導などの分野についても小学校・中学校の教員が共に研究や相談できる環境づくりをお願いします。

教職員の組織体制の検討の際には、教育活動や学校運営を効果的・効率的に行うことができるよう、小中学校のPTA組織やボランティア組織を1つにするなど、関連組織の見直しを行うとともに、行事の実施方法等についても併せて検討してください。

4 施設及び通学方法

(1) 現在の校舎を活用し、小中一貫教育がしやすい施設一体型校舎にする

子どもや教職員が交流しやすいよう小学校と中学校の校舎をつなげ、一体的な校舎の活用ができるようにしていただきたいと思います。

具体的には、学年の区切りに応じた教室の配置や特別教室の共用利用、職員室を1つに集約、体育館の小中共用利用、両校舎を渡り廊下でつなげる等、9年間の教育活動がしやすい環境の整備をお願いします。

さらに、学校運営協議会の会議やボランティアの作業ができ、学校に来た地域の人がいつでも気楽に立ち寄ることができる場所を校舎内につくることを管理面も含め検討してください。

(2) 通学方法

現在、牧之原小学校・中学校ともに徒歩を基本としていますが、小学校については、遠距離通学者についてはバス通学を許可されており、中学校については、2.3km以上を遠距離として捉え、自転車通学を許可されています。

しかし、遠距離通学をしている子どもたちのうち、六本松方面及び大久保・水呑方面からは路線バスを利用し通学できていますが、丸尾原方面は、路線バスが通っていないため、遠距離であっても徒歩で通学している実情があります。

子どもたちの通学の負担軽減のため、遠距離であってもバス通学ができていない丸尾原方面については、菊川市のコミュニティバスの利用を含め、バスで通うことができるよう速やかに検討をしてください。

資料編

- 1 意見を求める文書（写）
- 2 検討体制及びスケジュール
- 3 名簿
- 4 会議日程と内容
- 5 学校運営協議会意見まとめ
- 6 牧之原小中一貫教育検討部会意見まとめ

(写)

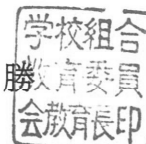
学教総第59号

令和6年11月8日

牧之原市菊川市学校組合立牧之原小中学校

学校運営協議会 会長 樽林 初夫 様

牧之原市菊川市学校組合教育長 橋本 勝



牧之原市菊川市学校組合立牧之原小学校・牧之原中学校における
小中一貫教育のあり方について

平成31年3月に策定した「望ましい教育環境のあり方に関する方針」に基づく教育環境充実のため、牧之原市立学校運営協議会規則（令和2年教育委員会規則第1号）第5条第1項の規定により、下記の事項について意見書の提出を求めます。

記

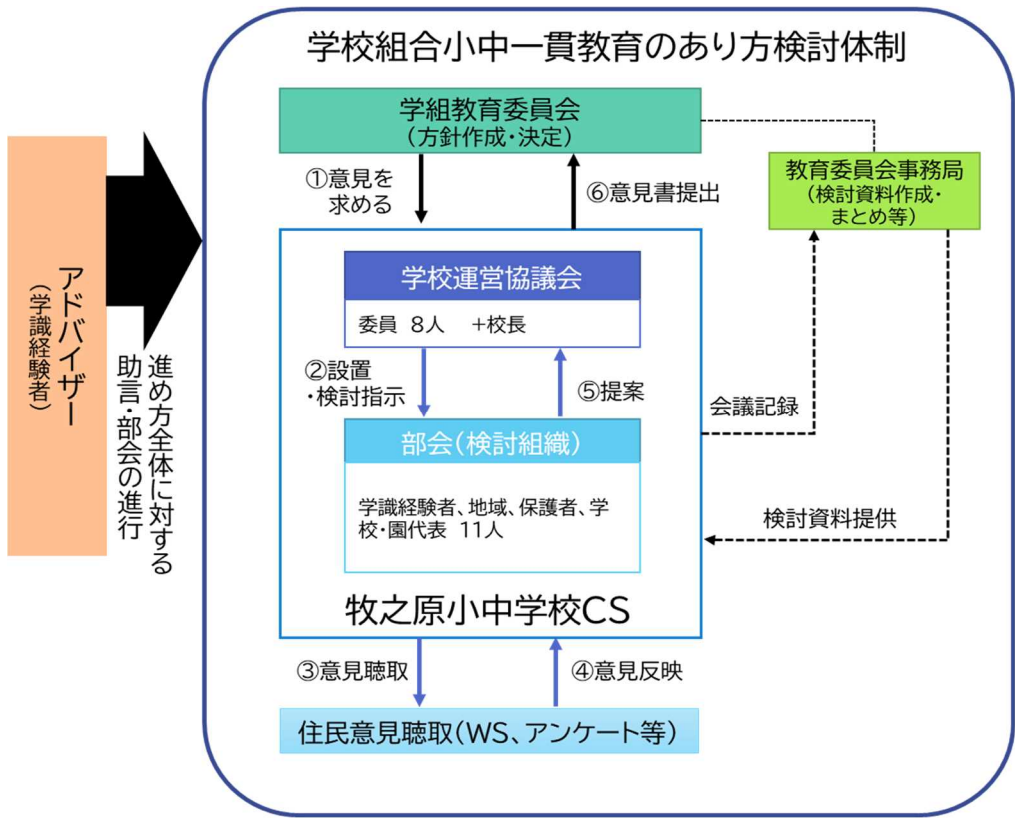
1 意見を求める事項

牧之原市菊川市学校組合立牧之原小学校・牧之原中学校における施設隣接の利点を最大限生かした、小中一貫教育を充実するための提案。

2 提案にあたっての留意点

- (1) 牧之原市望ましい教育環境のあり方に関する方針を基本とすること。
- (2) 現状を把握するとともに、学校区の住民の意見を聴取すること。

■検討の体制及びスケジュール



年度 月	令和6年度(2024年度)						令和7年度(2025年度)			
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
教育委員会	10/24 方針検討 意向決定			学校運営協議会・部会		オブザーバー				7/18 定例会
運営協議会	意見を求める	11月8日 検討内容・ 方法の承認		1月22日 視察 学校運営協議会・ 部会合同	提案	3月24日 ・提案書受取 ・意見交換 ・意見聴取について			6月23日 意見書内容 協議・決定	意見書 提出
部会			12月2日 第1回 「目指す姿と課 題」 ①学ぶ ・キャリア教育 ・小中一貫教育 ・CS等 ②ws目指す姿 と課題	1月31日 第2回 「現状と課題」 ①牧小中の現状 を知る ・小中の取組 ・CSの取組 ②具体策の検討	3月4日 第3回 「提案まとめ」 ①提案内容の 確認 ②意見聴取方法					
意見聴取等			12月頃 子ども・教職員アンケート				4～5月 意見聴取			

■名簿

○学校運営協議会

令和 6 年度		令和 7 年度	
氏名	備考	氏名	備考
くればやし はつ お 樽 林 初夫		くればやし はつ お 樽 林 初夫	
たちばな ゆう こ 立花 優子		たちばな ゆう こ 立花 優子	
やまうち けい こ 山内 恵子		さかぐち りつ こ 坂口 律子	
いいだ ま ゆ こ 飯田 真由子		やぐち ち さ こ 矢口 知佐子	
ふくだ なみ こ 福田 並子		ふくだ なみ こ 福田 並子	
ふくだ ひとし 福田 均		ふくだ ひとし 福田 均	
ふじむら ただし 藤村 匡		ふじむら ただし 藤村 匡	
すず き だいすけ 鈴木 大輔		なぐら ひろみ 名倉 宏美	
		まぶち ひさまさ 馬淵 久将	

○牧之原小中一貫教育検討部会

氏名	区分	地区
しまだ けいご 島田 桂吾	学識経験者 (静岡大学教育学部准教授)	
おかざわ ともひこ 岡 澤 知彦	牧之原小学校校長	
つかもと のぶお 塚 本 信夫	牧之原中学校校長	
やまもと けいこ 山 本 恵子	牧之原保育園園長	
あらはた よしのり 荒 畑 賀 範	牧之原小学校保護者	牧之原市
あさい ようじ 浅井 陽次	牧之原小学校保護者	菊川市
しおざき せいご 塩 崎 誠悟	牧之原保育園保護者	菊川市
みつはし まい 三 橋 麻衣	牧之原保育園保護者	牧之原市
おおさき のぶひろ 大 崎 信 博	牧之原地区教育後援会	牧之原市
きの いくお 木野 郁夫	牧之原地区教育後援会	菊川市
のむら とよみち 野村 豊 道	牧之原地区教育後援会	牧之原市

■ 牧之原小中一貫教育のあり方検討に係る会議等一覧

会議等	開催日時	内 容
牧之原小中学校 学校運営協議会	令和6年11 月8日	■小中一貫教育のあり方を検討することを決定 ○検討内容及び検討方法を決定 ○ワークショップ 「牧小中の子どもたちに学校でどんな学びや生活をしてほしいか？」(目指す学校像と課題)
牧之原小中一貫 教育のあり方検討 部会【第1回】	令和6年12 月2日	■目指す学校像と課題の確認 ○委員委嘱 ○講話「これからの学びについて」 (静岡大学教育学部准教授 島田桂吾氏) ○ワークショップ 「牧小中の子どもたちに学校でどんな学びや生活をしてほしいか？」(目指す学校像と課題)
アンケート	令和6年11 月28日～ 12月12日	○小中一貫教育に関するアンケートの実施 ・小学生、中学生、教職員を対象 回答数：小学生52件、中学生66件、教職員19件
視察研修	令和7年1 月22日	○先進地視察 ・川根本町立三ツ星学園(義務教育学校) ※学校運営協議会、検討部会、教育委員会との合同視察
牧之原小中一貫 教育のあり方検討 部会【第2回】	令和7年1 月31日	■具体策の検討 ○牧之原小学校・中学校の現状を知る ・牧之原小学校、牧之原中学校の現状 ・コミュニティ・スクールの現状 ・児童生徒、教職員へのアンケート調査の結果 ○ワークショップ1 「子どもたちにどんな体験をさせたいか」 ○ワークショップ2 「校舎をどのように利用したいか」
牧之原小中一貫 教育のあり方検討 部会【第3回】	令和7年3 月4日	■提案書まとめ ○提案内容について協議 ○意見聴取方法について
牧之原小中学校 学校運営協議会	令和7年3 月24日	■提案書の受理 ○提案書に基づき、意見書作成に向け意見交換 ○意見聴取方法について
アンケート	令和7年4 月16日～ 5月19日	○小中一貫教育に関するアンケートの実施 ・牧之原保育園・小学校・中学校の保護者、地域住民 を対象 ※回答数：44件(榛原21件、相良13件、菊川10件)
牧之原小中学校 学校運営協議会	令和7年6 月23日	■意見書まとめ ○意見書の内容について協議 ○学校運営協議会について

■牧之原小中学校 学校運営協議会 (R6.11.8) 付箋意見まとめ

「牧小中の子どもたちに学校でどんな学びや生活をしてほしいか」

No.	分類1	分類2	内容	G
1	今いいなと 思うこと	優しい	子供たちが優しい。思いやる心がある	2
2			優しい。お互いのことをよく分かっている(中学生)	1
3			年寄りにも優しく接してくれる	1
4		児童生徒の交流	中学生の思いやりに触れる	2
5			中学生にあこがれる	2
6			中学生のやっていることが見えやすいので、小学生が見通しを持てる	1
7			みんな仲良し(異学年とも)	2
8			保育園児も含め、幅広い人との交流	2
9		小中合同	体を使った体験活動。小学生が中学校の方へ	2
10			中学校の学習発表会を小学生が見学できる	1
11			スポーツ祭を小学生が見学できる	1
12		教育環境(ハード)	恵みの森がある。保育園の散歩コース(小学校)	1
13			茶園がある。保・小・中でお茶体験(中学校)	1
14			合同で使える大きなグラウンド	1
15		教育環境(ソフト)	中学校の先生による専門指導	2
16			一人一人への丁寧な対応。教員→生徒へ(小学校)	2
17			切れ目の少ない教育(情報共有)	2
18		地域との学び	地域の魅力を実感する	2
19		児童生徒の良い ところ(気質)	素直である(中学生)	1
20			素直に気持ちを言える(低学年)	2
21			純粋な子供が多い(小学生・中学生)	1
22		児童生徒の良い ところ(行動)	挨拶ができる	1
23			言葉遣いは比較的しっかりしている(中学生)	1
24			話をきちんと聞くことができる(中学生)	1
25			授業をきちんと取り組むことができる(中学生)	1
26			集団生活ができる	1
27			掃除をしっかりやることができる(中学生)	1
28			仕事を嫌がらない。頼みごとを快く応じて動く(中学生)	1
29		学校での様子	学校が楽しい	1
30			授業中楽しそう	2
31			休み時間が特に楽しそう	2

意見数31件

No.	分類1	分類2	内容	G
1	もっと こうしたら いいなと 思うこと	児童生徒の交流	小学生の生活科の授業に中学生が関わるといいな	1
2			中学生が小学生に授業をする時間	2
3			小学校のクラブ活動に中学生が関わる	1
4			小学生の勉強(宿題)を中学生が見る	1
5			小中合同で文化祭	2
6			小中学生の交流(委員会活動)	2
7		小中交流のために 必要なこと	行事を小中で合わせていく	2
8			小中の時間のずれ→合えば共にいられる	2
9			教科カリキュラムの統一(単元)。交流・個別最適化	2
10		地域との交流	地域との交流をもっと増やす	2
11			PTA活動。協力してくれる方を増やす	2
12		教育環境(ハード)	小中行きやすいようにグリーンロードに屋根をつける	2
13			校舎がつながっているといい。雨の日も通れる	1
14			図書館室を一緒に使えたらいい。小学校の図書館がもっと充実してほしい	1
15			トイレ施設が古い	2
16		教育環境(ソフト)	支援員を増やしてほしい	2
17			教員数の確保(小学校)	2
18			複眼的な指導・支援	2
19			つまづく子への対応(特別支援・不登校)(中学校)	2
20			福祉的な学校環境	2
21		子供たちの目指す 像(主体性)	もう少し主体性が欲しい ※自分の考えをしっかりと持たせたい(中学生)	1
22			自分から行動する	1
23			前に出る子が決まってくる。たくさんの子に機会を増やす	2
24			授業に積極的な子、消極的な子の差がみられる(小学校)	2
25			グループの活動は人ごとのように授業に参加している子が多い	2
26		子供たちの目指す 像(自己肯定感)	自分に自信を持つ	1
27			とてもまじめ。自己肯定感が低いように見える(中学校)	2
28		子供たちの目指す 像(コミュニケーション)	相手のことを考えて行動する	1
29			あいさつ。本人たちはしているつもり	2
30			言葉づかい(小学校)	2
31		子供たちの目指す 像(たくましさ)	たくましさ	1
32			たくましさをもっとつけたい ※家庭の教育力にもう少し期待したい(中学生)	1

意見数32件

■牧之原小中学校 学校運営協議会 (R7.3.24) 付箋意見まとめ 「提案書に対する考え」

No.	分類	内容	G
1	方針・方向性	一貫校のメリット・目的を示す	1
2		目指す子供像と教育方針「夢ある未来を切り開く子」でよいのか？ またそのために何をすべきか	1
3		教育方針を学校だけでなく地域の方で考える	1
4		整備と実現のためにはどうすればよいのか、多くの人の考えが必要	1
5	9年間の系統的・ 連続的な学び	9年間の体制を説明してくださったことを添えてほしい	1
6		子どもたちが学校に通うことが楽しいと感じ、学校に通いたいと思うことが大事なのは	1
7		カリキュラム例が欲しい	1
8		行事(学年毎)が分からない	1
9		部活動への希望参加。今後部活動はどうなっていくのか	1
10		小学校高学年の希望者の部活動参加は可能か	1
11		中学校の部活のあり方が考え直されている現在、小学生も参加となると複雑になる。小学生の部活動参加は大賛成だが、中学校の部活のあり方が先	1
12		保育園(牧保)との接続は大事だが、他の幼稚園・こども園等に通っている子もいる	1
13		中学校の情緒学級、不登校児童生徒への支援施設が欲しい	1
14		「(3)個別最適な学び」の項目について、「子どもたちの特性」という言葉が出てくるが、「子ども個々(またはそれぞれ)」などの言葉に変えてはどうか	1
15	外との関わり (リアルと オンラインの ハイブリット)	外との関わり。情報だけでなく経験する	1
16		同市内他校との交流の時間があると良い	1
17		地域課題にアプローチする、地域とともに解決に取り組む探究活動を行う	1
18		子ども参加型	1
19		地域の人をもっと学校に来てもらうように。部屋も作る	2
20		ナナメの需要を広くするのと、タテ・ヨコの需要を深めるのと両方必要。学校だけのヨコの必要はない	1
21	教職員の 組織体制	教員の免許状のバランス。学校を安定させる熱意あふれる教員の配置	1
22		教室に行けない子の居場所や対応する先生の確保	2
23	通学方法	牧之原市の通学要件に順じた交通手段と施設改修	1
24		高学年の自転車通学は低学年の登校班が困るでしょう…	2
25		登下校の車の送迎場所を決める	2

No.	分類	内容	G
26	コミュニティースクール	コミュニティースクールがボランティアのみになってしまっていないか？	1
27		コミュニティースクールのすそ野を広げる	2
28		コミュニティースクールを通して、もっと地域の人にかかわりを持ってほしい	2
29		CSDの時間を増やしてほしい	2
30		運営協議会の人数を増やす	2
31		地区の人を運営協議会に入れる	2
32	地域への周知	地域の方へのアピール方法が薄い	1
33		小中一貫(4-3-2)制にすることによるメリットの説明	2
34		牧小中の連携をていねいに地域に対し説明してほしい	2
35		各分野(保護者、地域、学校側)それぞれどんなメリット、デメリットがあるか分けて説明してもらいたい。実際、自分にどんな影響があるか把握できた方がより真剣に考えることができる	2
36	開校に向けて	渡り廊下を2階に	1
37		小学校と中学校、合わせられることはどんどん合わせる(行事やPTA活動など)	2
38		開校前に小学校と中学校をつなげる通路を必ず作ってほしい(室内、濡れないように)	2
39	その他	保護者のお金の負担にはどんな影響が？	2
40		小中一貫校としての全体としての流れとして、良くできている提案書だと思う	2

意見数40件

■第1回牧之原小中一貫教育のあり方検討部会付箋意見まとめ

【目指す学校像】「子どもたちの「学びのコンパス」を生かせる学校とは？」

No.	分類1	分類2	内容	G分類	G
1	①学校に行くことが楽しい(行きたいと思える学校)	子どもが主役	子供が主役	子どもが主役	2
2		学校が楽しい	安全・安心・楽しい	学校が楽しい！	2
3			学校に行くのを楽しみでいてほしい		2
4		学校に行きたくなるような魅力	学校に通う目的がある(登校する目的)(学校の魅力)		2
5		不登校がない学校	不登校のない	不登校なし!!	2
6			不登校がない		2
7	②牧之原らしさを生かした学校	牧之原らしさを生かす	ここにしかない魅力(災害、祭)	牧之原の魅力・よさを知り、人とつながって	1
8			地域の特色を生かした学校(高台・交通の便で人が増えたら良い)		1
9	③個別最適な学びの環境	個に応じた教育ができる	勉強をやり直せる(小学校にもどっても)。進んでいる子にはもっと先の勉強を提供できる(高校レベル)	小中生	1
10			0才～15才までが、平等に教育を受けられる環境	子どもが主役	2
11	④自分らしさが発揮できる・受容される教育環境	広い視野	広い視点で物事を見られる力	一人ひとりが大切にされる	1
12		自己表現ができる	自分の考えをちゃんと言えるように	表現できる・認め合える	2
13		コミュニケーション力	発言力・発信力を育てる(コミュニケーション力)		2
14		自由に表現できる環境	何でも話せる、相談できる子ども・環境を作ってほしい	一人ひとりが大切にされる	1
15			自分の思ったことや考えたことを気兼ねなく言える	表現できる・認め合える	2
16			言える環境(みとめてもらえる)		2
17		チャレンジできる環境・レジリエンス力	失敗を認めてくれる環境(失敗してもへこたれない)		2
18			チャレンジすることを認めてくれる環境		2
19		自分らしさを大切にできる	他人と比較しない		2

No.	分類1	分類2	内容	G分類	G
20	⑤多くの人・こと・ものつながり、オンラインとリアル両方のさまざまな体験ができる	人・もの・こととのつながり	つながる	家庭＝学校＝地域	1
21		多様な体験	多くの経験をしてほしい		1
22		リアル・専門性の高い体験	本物に学ぶ		1
23		他の学校や地域との交流	外との交流	牧之原の魅力・よさを知り、人とつながって	1
24		AIの適切な活用	AIと人間らしさ	AI	1
25		学校の見える化	学校生活の見える化	家庭＝学校＝地域	1
26		地域が子どもを育む	地域の受け皿を充実		1
27		大人も学べる	大人も学べる		1
28		大人が主体的に関わる	積極的な人		1
29		学校が拠点	学校が拠点に		1
30	⑥異学年が積極的に交流できる環境	異学年との縦のつながり	たてのつながり、人間関係	牧之原の魅力・よさを知り、人とつながって	1
31			異年齢 クラスをこえた関わりができる	いろいろな人と関わる ことができる	2
32			年上も年下もなかよくなれる環境		2
33			異学年との交流の場が多い(上級生へのあこがれ)		2
34		合同部活動	部活動を小中合同で行う	小中生	1
35	⑦子どもたちがさまざまな教職員と関わる ことができる環境	多くの教員と関わる	担任以外の教員とかかわる場が多い	いろいろな人と関わる ことができる	2

No.	分類1	分類2	内容	G分類	G
37	⑧地域愛を育む	地域行事に参加	どういう立場で帰ってきてても、地域の行事などに積極的に参加できる人になってもらいたい	家庭＝学校＝地域	1
38		地域愛を育む	牧之原が好き	牧之原の魅力・よさを知り、人とつながって	1
39			大人になっても牧之原で暮らしたい	地域愛	2
36	⑨保・小・中学校の教員同士の交流の機会	教職員間の交流	職員間の交流ができる	保小中の先生の交流、一貫した理念	2
40		土壌づくり	園で経験したことが大人になっても生かされる	地域愛	2
41		教育理念の統一	教育・保育(保・小・中)理念が一貫したものであること	保小中の先生の交流、一貫した理念	2
42		保育園との接続	小中だけでなく、保育園も入れてほしい。(牧之原だけなので)保・小中一貫	保・小・中を一緒に考えよう	2
43		保育園や高校との接続	保育園や高校ともつながる	牧之原の魅力・よさを知り、人とつながって	1

意見数43件

■第1回牧之原小中一貫教育のあり方検討部会付箋意見まとめ

【課題】「子どもたちの「学びのコンパス」を生かせる学校とは？」

No.	分類1	分類2	内容	分類	G
1	①不登校がない学校	不登校	不登校	人間関係の不安 (生徒・保護者)	2
2	②子どもが自分らしさを発揮できる環境づくり	自分らしさを発揮できているか	自分の居場所があるか	人間関係の不安(生徒・保護者)	2
3			コミュニケーションの力が弱い子・苦手な子(不登校など)		2
4			子供たちなりに悩みながら育ったのかも(家庭でも会話少なかった)	一人ひとりが大切にされる	1
5	③9年間の変わらない人間関係に対する対策	子どもと保護者の人間関係の固定化	人間関係の固定化が不登校の原因の1つ？	人間関係の不安(生徒・保護者)	2
6			単数クラスなので、人間関係が決まってきてしまっている。 (0才からの関係。子どもも保護者も)		2
7			12年間一緒にいるので人間関係をどうしていくのか見通し		2
8			保護者の不安。新規の人たちにとってどうか？		2
9		人数が少ない	生徒数が少ない	小中生	1
10			新しい人が入って来ない	牧之原の魅力・よさを知り、人とつながって	1
11			生徒数の今後。増やさなくてよい？	人間関係の不安(生徒・保護者)	2
12		学校区外を知る機会が必要	外と比べてみる体験	牧之原の魅力・よさを知り、人とつながって	1
13	④9年間の成長段階に応じたカリキュラムの作成	9年間になることで子どもたちがやりがいを見つけるか	小中一緒に子供たちのやりがいとは見つけれられる？	9年間で…(子ども)	2
14		9年間で同じ目標を持てるか	9年生で協調できるか。1～9年間同じ目標をもって進めるのか		2
15		9年間通わない子もいる	小中→中高(私立)。小中一貫だと中学受験する子はどうなる？		2

No.	分類1	分類2	内容	分類	G
16	⑤多様な人との関り方	多様な人と関わる機会を増やしたい	多くの人とのかかわり(仲間、教師、地域の方)	小中生	1
17		地域の関わり方	地域人材の活用(中学校:とくに教科)…で呼ぶのは難しい	教育環境(交流しやすく)	2
18	⑥教職員数の確保	教職員数を確保	教職員の確保	教育環境(交流しやすく)	2
19	⑦保育園と小学校のスムーズな接続のための取組	保小の接続	他人と比較しない	9年間で…(教師)	2
20			スタートカリキュラムをもっと充実させたい。年2回位しかない。子ども同士の交流はない		2
21			隣接しているが交流が少ない	教育環境(交流しやすく)	2
22			職員間の交流がない		2
23	⑧学校での生活の様子の見える化	学校での様子が見えにくい	子どもの生活等をもう少し知りたい	家庭＝学校＝地域	1
24			学校での生活を知らない(親が)		1
25	⑨地域愛を育む	地元に帰って来たいと思える	卒業した子達が地元に帰って来てほしい	牧之原の魅力・よさを知り、人とつながって	1
26	⑩小・中が交流しやすい校舎に	小・中が交流しやすい	校舎は一つにした方がよい	施設	1
27			校舎等の整備(小中間)。中を通っていく。雨にぬれずにいけるように	教育環境(交流しやすく)	2
28	⑪教職員が情報共有しやすいように	職員室は1つ	職員室の一体化	教育環境(交流しやすく)	2
29	⑫老朽化への対応	老朽化への対応	園・学校の老朽化。新しくなるといいナ…	教育環境(交流しやすく)	2
30	⑬通学しやすい方法の検討	通学方法	通学方法	施設	1

意見数 30件

■第2回牧之原小中一貫教育のあり方検討部会付箋意見まとめ

WS1「子どもたちにどんな体験をさせたいか」

どこ	分類	G分類	内容	G
共通	地域資源(人・もの・こと)を活用した活性化と愛着づくり	こうなってほしい	地域資源の魅力を学び、地域の活性化を考える。	2
			牧之原の魅力、誇り(人、こと、もの)	2
	市内外との学校との交流	市内外義務教育学校	同じ規模の義務教育学校との交流で、共通点や違いを知る場	2
			榛原、相良地区の子供たちとの交流	2
リアル	異学年交流	学校内	中学生(8・9年生)が授業をする。個々に教える。	2
			ペア活動。4-3-2からそれぞれ1人ずつ等、何人かずつくらいでペアを作る。	2
			5年生?4年生?が保育園の年長児と遊んでくれる。就学時に安心。	2
		生きる	合同で行う。(グループ分けでみんなが行える)	1
	市内の学校間での交流	学校間の交流	チーム牧之原として、菊川・相良・榛原の各校と何かは具体的にはないが、団体戦をやる。(スポーツ、文化的なもの)	1
	地域のことを学ぶ・体験する	その他体験	昔ながらの体験。餅つきなど。	2
		地域との交流	地域の伝統文化、歴史の学習	2
			地域の職業の人を知る。	2
			牧之原ゆかりの人 ※村松選手、高校生(近い未来づくり)	2
			地域のことを住民から学び、自ら調べて発表する学習	2
			合同で遠足。牧之原の会社とかお店に行き地区を知る。	2
	福祉体験	地域との交流	高学年は福祉施設で仕事を体験し、福祉への理解を深める。	2
		生きる	幼児やお年寄りの世話をする体験	1
	農業体験	生きる	農作物を作る。1年を通じて	1
			収穫体験	1
	ボランティア活動	地域の役に立つ	役に立つ(行動) ※草取り、ごみ拾い	2
	職場体験・見学	地域との交流	地域産業、商業の職場体験	2
		企業	大きい企業があるので見学だけでも	1
	地域とのコラボ	企業	地域のお店のポップを作る	1
			牧小中の活動として工務店やデザイン事務所のようなことを実施。(地域からの依頼を受ける)	1
		地域の役に立つ	役に立つ(姿勢) ※地域課題の解決、アイデアの提起	2

どこ	分類	G分類	内容	G
リアル	プロから学ぶ体験	地域との交流	プロの方を呼んでいろいろな体験。	2
	海外研修	海外との交流	小中学生の海外派遣研修(募集して)。※市で費用を助成してもらう	1
	ゲストティーチャー	企業	自分の好みに合わせて選べる企業からの話	1
		生きる	様々な人による講和(LGBTQ ⁺ 、企業、障害を持っている方)	1
	地域での作品展示	企業	大きいショッピングモールができれば作品等を展示させてもらう。	1
		その他体験	うるおいづくり。作品の展示、あいさつ等	2
	小中一緒に登校	学校内	通学方法。中学生も一緒に朝登校する日を作る。	2
オンライン	他県の学校との交流	学校間の交流	他県の小中学校との交流	1
	海外との異文化交流	海外との交流	英会話だけでなく、生活ぶりなどを知る	1
			海外の中学生と英会話で交流する事業	1
			海外の人との交流活動	1
		遠くの人、企業との交流	サーフィンとお茶を通じてハワイの子どもとの交流	2
			世界とつながる(空港、矢崎、荒畑園)	2
		その他体験	英語、外国語の体験になる	2
	企業との交流	遠くの人、企業との交流	牧之原、静岡県有名企業に子供たちが質問する場	2
			銀行の方が行う(話す)お金の大切さ	2
	地域のイベントを学校で	企業	保育園から中学生、企業、地域、保護者全部集めたイベント(学校のグラウンドで夏祭りとか)	1

意見数:42件

■第2回牧之原小中一貫教育のあり方検討部会付箋意見まとめ

WS2「校舎をどのように利用したいか」

具体策	場所	校舎	小中一貫教育のために必要と思われる設備・改修	G
2階に連絡通路をつくる。 (できれば他の階も)	渡り廊下	小中全体	各階の渡り廊下を作る。	1
			2階を接続する。→職員室を一つにする。	1
			2階で渡廊下につなげる。(可能ならば全フロア)	1
			2階に連絡通路を確保。	2
			できれば3階(1階)にも通路があった方がよい。(屋根付き)	2
		中学校	図書室をつぶして通路にし、多目的室2を図書室にする。	2
			調理室を潰して渡り廊下にする。	2
		小学校	図書室、第2はらっこルームを潰して渡り廊下にする。	2
職員室は1つにする。中学校の職員室拡張又はランチルームはどうか。	職員室	中学校	職員室は中央部である中学校の食堂へ設置。	1
	1階		職員室は一つで。	1
			小中共同の職員室を設置(広くとる)	2
			校長室、事務室も1階の方が良いので中学校の方をベースに使用。	2
ランチルームは小中学生が利用できるとうい。	ランチルーム	中学校	ランチルームは小中で1箇所。	1
			中学校みたいに全員でお昼を食べるところが小学校にも欲しい。	1
			テラスにしたらどうか。	1
玄関は1つに。	玄関	中学校	玄関は一つに。(中学校玄関を使用)	1
特別教室を共用で使用し、空いた特別教室を普通教室にするなど、2つの校舎を柔軟に使い教育活動しやすい動線とする。	間取り	小中全体	専門の教室をなるべく片方の棟に寄せる。	1
	2階	中学校	その他の部屋(教室、生徒会室、多目的室)は教室にする。(6室)	2
	3階		音楽室、調理室、被服室、理科室、美術室は中学校の設備を使用。(小中共用)	2
	教室	小学校	小学校職員室から校長室までを教室に改修する(2or3教室できる)	1
			教室はなるべく近くにする。	1
	2・3階		その他の特別教室(児童会室、学習室等)は教室にする。	2
			職員室、相談室、事務室、校長室は教室に改修する。	2
児童クラブと地域スペースを同校舎・同フロアにする。	1階	中学校	地域のスペースや放課後児童クラブにする。	1
		小学校	児童クラブや地域開放などに使用。	2
			外部の人が入ってくることを想定しシャッター等を設置。	2
トイレの洋式化	トイレ	小中全体	洋式に改修する。	1
プールを1つに。	プール	小学校	小学校プールは取り壊す。(児童クラブ等を建設)	2

意見数 28件

**牧之原市菊川市学校組合
小中一貫教育推進計画**

令和7年9月

牧之原市菊川市学校組合教育委員会 教育総務課
〒421-0592 静岡県牧之原市相良275番地
TEL:0548-53-2642 FAX:0548-53-2657
E-mail:kyoiku@city.makinohara.lg.jp